

詳解「TV ザ・ベストテン 山口百恵 完全保存版（5枚組）」

平成22年5月10日 中野希也

筆者は「SAKURA」誌に「アンソロジー山口百恵さん」を寄稿した（2004/1）。これは、大手出版社の20世紀クロニクルのいずれもが1980年版の表紙には、百恵さん引退公演の写真を掲載していたため、「私たち日本人はどうして百恵さんが忘れられないのだろうか」について考察したものであった。

五年後、一層煌きを増した彼女の光芒をまとめ「山口百恵さん さよならの向こう側」を書いた（2009/1）。

この7時間におよぶDVDセットは「TV ザ・ベストテン」30周年記念の企画として2009年12月に発売された。

「ザ・ベストテン」は1978年1月19日木曜日午後9時に黒柳徹子・久米明の司会で始まった音楽番組で、放送12年・オンエア603回・最高視聴率42%を記録した。プロデューサーが出演歌手を選定するキャスティング方式ではなく、TV音楽番組史上最初のランキング方式により出演者を決定した。その方法はリクエスト葉書のランキング・レコード売上ランキング・ラジオ各局ベストテン番組のランキング・有線放送ランキングの集計からなる。見る側（視聴者）、出る側（歌手・タレント）、作る側（制作スタッフ）それぞれの番組を面白くしようという共通目標が番組の人気を支えた「三位一体」の構図である。（註1）

家族全員で一家に一台しかないテレビを見ていたとき、まだ日本に「みんなが知っている歌」があったとき。百恵さんは1978/1-1980/11の間に122回ランクインした。山口百恵さんのフラッシュバックは、そのしあわせな時代をまぎれもなく反芻することである。全映像の中から、百恵さんを身近に見た制作サイドの声を中心に紹介する。

赤い絆（77/12）（作詞 松本隆/作曲 平尾昌晃）♪泣きながら ラッシュ・アワーの・・・
・同名のテレビドラマの主題歌。東京でのドラマの収録後、化粧を落とす時間も無く飛行機で大阪に向かい、梅田コマ劇場リハーサル室から中継。

乙女座宮（78/2）（阿木耀子/宇崎竜童）♪私 ついて行くわ（ほんと）……

・ファンの葉書

よく百恵ちゃんの夢を見ます。子供はみんな大大ファンです。一日一回、百恵ちゃんを見ないと一日中落ち着きません。テレビに出ないときは何もする気がしません。ですから歌いはじめるとテレビの音をガーンと大きくします。

・セットデザイナーのとらえかた1

百恵さんには、全体にすごみを感じる。でもこの歌は、平和、メルヘン、かわいい世界。素直に表現すべきだ。生まれて初めてだが、少女趣味に走ってみよう。

・作詞家 阿木耀子

恋をする少女のピュアでかわいらしところを書かせていただきました。

・セットデザイナーのとらえかた2

やはりこの曲は星雲からは離れられない。だったら、今までで一番きれいで、決定版の星雲をつくろう。その中に百恵がきれいに納まるのだ。

うれしいニュースが入った。彼女がこのセットに答えて、新しい衣装を用意してくれると。

プレイバック Part2 (78/5) (阿木/宇崎) 緑の中を走り抜けてく真紅なポルシェ……

・セット1

きっぱりとした曲調と振付け、独特なブレイクがこの曲の持味、それらを生かすにはメリハリのきいたカメラ割りと絵の変化を出す。四面の箱、カラフルなビックリ箱、そして最後は、四面が一気に開いて驚かす。そこは全く別の世界をつくりだす。

・作曲家 宇崎竜童

この曲は一晩で書き上げ、ギターでデモテープを吹き込み百恵さんに渡しました。ガラガラ声だったなあ。

・セット2

奥の赤いドアは何？と思わせながらフロア一面に点滅する赤色灯は混雑の高速を走る車のテールランプだ。イライラの表現、謎の赤いドアの向こう側は彼の居る白い部屋。赤と黒でグラフィカルに統一する。

・阿木耀子

♪馬鹿にしないでよ そっちのせいよ
これはゆうべの私のセリフ…
女はいつも待ってるなんて
坊や、いったい何を教わってきたの
私だって 私だって 疲れるわ♪



このフレーズの中に“私”がみつあります。百恵さんは“わたし”“ワタシ”“アタシ”と、歌い分けていました。テレビや映画に出演なさったからでしょうか、歌詞のひとつひとつにとっても感情がこもっていました。

・セット3

曲線、鋭角的、赤・黒・白のキッパリ感、きわどさ、これらのイメージの集合体はギリギリの狭く高い白階段。そこにありえないイメージの幕が出現。一発本番、ケレン演出に賭けてみよう。

絶体絶命 (78/8) (阿木/宇崎) ♪別れて欲しいの 彼と……

振付師 西条満

テーマは三角関係だ。色気も出したい。不器用だが研究熱心で、わからないとわかるまで聞いてくる。そこで、俺は100%振り付けしないで、百恵にも考える部分をあえて残す。百恵は客の心を知っている。そしてあいつなりの色づけがなされ、振り付けが完成する。あの色気、あの目力で説得力が増すのだ。

♪さあさあ さあさあ
はっきりカタをつけてよ
はっきりカタをつけてよ♪

そのふり、視線をつかうところはズクツとしたよ。

いい日旅立ち (78/11) (作詞作曲 谷村新司) ♪雪解け間近の 北の空に向い……

・第一位と20歳の誕生日を記念して調布グリーンホールに桃の木を植樹。

「20歳記念 ザ・ベストテン第一位 いい日旅立ち 山口百恵」の自筆の札を掛ける。館長がバンザイの音頭をとる。ところが一晩で盗難にあう。館長は「盗まれたのはニセモノで本物は金庫に隠しておいた」と報告。

美・サイレント (79/3) (阿木/宇崎)

♪季節が 変わるたびごと 花を抱いて
娘達は着飾って 街に出るわ
それを目で追うあなたは
あたしの事など忘れて 横顔のむこうで
誘っているのよ m-胸さわぎ
Be silent, Be silent
Be silent, Be silent
あなたの〇〇〇〇が 欲しいのです
燃えてる X X X X が 好きだから♪

・セット

彼女は恋人である彼の沈黙の訳が知りたくて、「知らないのは私だけなのですか？」と周りの人達に問いかける。「ねえ、そうなの？」誰も答えてくれない。沈黙が広がる。沈黙の色は黒ではない。沈黙の世界は緑だ。

・阿木耀子

歌っているけれども声はない。こういう歌こそ百恵さんでなければ歌っていただけなかったでしょう。私の大好きな歌です。

・〇〇〇〇 X X X Xの部分は歌ってはいるが無音であるため、どういう言葉か問い合わせが多く、ついに字幕が出た。

愛の嵐 (79/6) (阿木/宇崎) ♪その人は幻 うす紅のドレス着て……

・セット

今の山口百恵にセットはいらぬ。山口百恵そのものが全てであり、それを前面に出す。4・3のフレームの中で彼女を邪魔しないように、余白の部分で勝負する。情念の赤、激情の赤、赤い嵐を起こすんだ。



しなやかに歌って (79/9) (阿木/宇崎) ♪しなやかに歌って 淋しい時は……

・阿木耀子

百恵さんこそ、しなやかな方だったなあと思います。どんな色にも染まりながら決して染められることのないご自分をお持ちでした。

・セット (先週、百恵さんは、大阪で「好きな人がいます」と宣言した) 第一位おめでとう、そしてハッピーウエディング！花嫁は白のウエディングドレス、ライスシャワー、しなやかにやさしく重なり合う光たち。正面から取り組もう。大階段と最後にチョッと教会のスタンドグラスを匂わせて・・・百恵さん、きれいだろうなあ。

・暴走族解散の新聞記事。
若者 15 人の暴走族「美・サイレント軍団」が警察に解散届を提出。係官のどうして？の問いに答えて「百恵ちゃんの恋人宣言にショックを受けて・・・」と消え入るような声。

愛染橋 (79/12) (松本隆/堀内孝雄) ♪春一番が吹き荒れた後……

・この名前の橋を募ったところ全国から 9 箇所の写真が集まり、堀内孝雄が選んだイメージに合う橋のセットをつくった。バックは平安風の大きな扇、雪積る橋。

♪橋の名は 愛染橋
ほほえんで渡れば恋がかなう
うつむけばそれきり とまどい橋
けれどあなたに 手招きされて
渡りたい 渡れない ♪

・視聴者の投書；

“私がいま勉強している問題集に百恵さんが出てきてびっくりしました”

「ニュースタディ 中学 1・2 年英語の総復習」89 頁の問題

TOMOKAZU loves MOMOE. She loves him _____.

A neither, B so, C too, D either

司会者 「正解は too ですが、あなたはそう書きますか？」

百恵さん 「はい、勿論です」

司会者 「この参考書は、あなたが恋人宣言するまえに発行されたのですよね」

百恵さん 「あら、そうですね。つくった方はえらいですね」

司会者 「どうして？」

百恵さん 「先見の明を持ってらっしゃる」

謝肉祭 (80/3) (阿木/宇崎) ♪愛して 愛して 祭りが始まる……

・阿木耀子

人生的な歌、哲学的な歌よりも、「恋をしているのよっ」というオーラが全身から匂い立っていたので、その百恵さんの激しさを歌にしました。

・セット 1

イメージは「恋する迷宮」、入ってみよう。祭りの喧騒をよそに恋の宮殿に上ったのは赤いバラが一輪。そしてどこにつながっているのか曲がりくねった長い廊下。佇むわたし、恋する迷宮。

・性格判断で「コップと聞いて最初に浮かぶイメージは何か？」があった。百恵さんはふたつの漢字を書いた。「華奢」（筆者注 きゃしゃ。姿のほっそりして上品なさま。よわよわしく姿の美しいさま）

・セット 2

のけぞる背中、突き刺さる男の視線。運命はタロットか、ジプシーのタロット占いはジャッジメント。復活、再会、宴、嫉妬心……

ロックンロール・ウィドウ (80/5) (阿木/宇崎) ♪もてたいための ロックンローラー
・宇崎竜童

最初からロックンロールをつくってくれと依頼がありました。僕らはその頃ダウンタウン・ブギウギ・バンドというエレキバンドでロックをやっていたので、その世界をそのまま百恵さんにぶっつけばいいんだと僕らはニンマリしながら、こちらの世界に“オイデオイデ”をしながら誘うようなつもりでお渡ししたんです。出来上りを聴いたときは、向こうの方が、“オイデオイデ”と…(笑) “あっ、あ、そうですか、おそれいました”みたいな、ロックの世界の人間が百恵さんに“私の世界の方にいらっしゃい”と言われたような印象を持ちました。(註2)

さよならの向こう側 (80/8) (阿木/宇崎) ♪何億光年 輝く星にも 寿命があると……

百恵さん

「この2年9ヶ月、いっぱい思い出があります。ものすごく高い階段をおりたこととか、階段いっぱいローソクをざっと並べていただいたり、とにかく、皆さんがていねいに歌によってセットを変えてくれたりたくさんスタッフの方々が一生懸命やってくれましたでしょう。だからそういうのが見られなくなると思うととてもさびしいです」

「ファンのみなさん、どうもありがとうございました。私がわがままで選んだ道ですけど、精一杯がんばります」(註3)

註1

第一位ランクインが最高の69週だった中森明菜は「ザ・ベストテン」成功の秘密を山田修爾プロデューサーに語った。

「スタジオで歌うとき、これは勝負だったのよ。セットはどういうセットなのか、カメラは私をどう撮ろうとしているのか。毎回、セット、照明、カメラ vs 私の勝負なの。このフレーズでこう撮るか、こういう灯りでくるか、では私はこう動いてこう歌う。セットや照明、カメラに負けてなるものかと思って歌っていたのよ。わかってくれる？ 私たちも一生懸命だった。」

註2

宇崎竜童

「私が彼女につくった曲は68曲になります。一人のアーティストに向ってこれだけ書かせてもらったことはありません。でも宇崎・阿木だけでなく、プロデューサーとディレクター、編曲家、宣伝担当、そして本人。全員が誰もが譲らないで勝負をしたのだと思います。「山口百恵」という頂点に向って、みんなが100%力を注いだのだと思います。それに10代の百恵さんが応えたのです。」

註3

後日「どうして仕事をやめちゃうんだろう？」にこう答えている。

百恵さん

「ふたりが築いていく生活の中で、私の仕事のために彼がどこかで我慢をしなければならぬ状態は嫌だった。妻という立場になる以上は、それなりに守っていくべき女のポジションがある。それを精一杯守りたいのです」

「結婚するということは、ふたりでひとつの生活をつくっていくわけだから、彼の半分が私になるということになるわけでしょう。それだけが全うできればいいという感じであって、その結婚生活にこういう形とか、自分がこういう状態になれることを望むということは、まずないんです」